

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 1月10日 10:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～44,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.000

エリオット波動とは

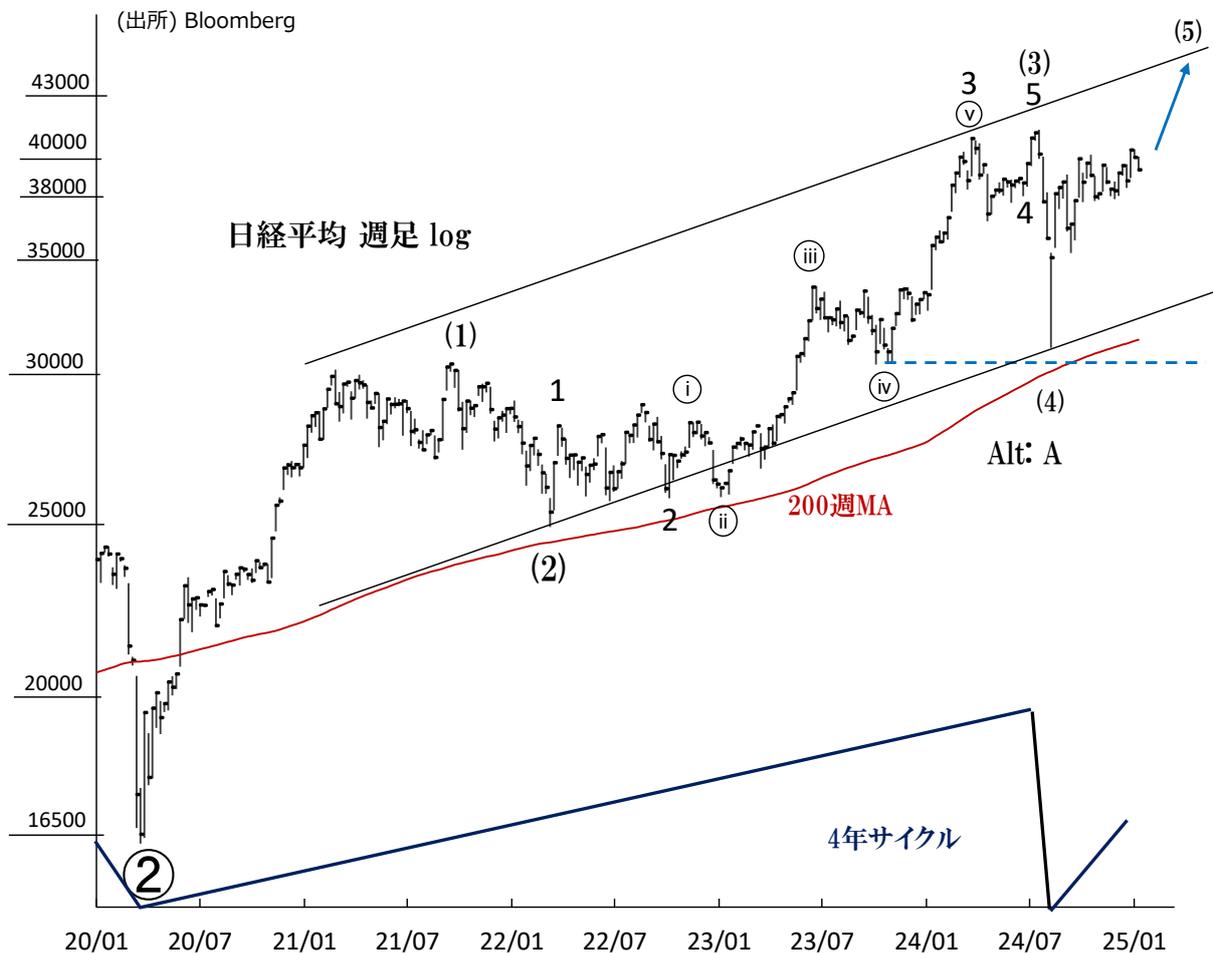
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)は 31,156 円(8/5 安値)を以て終わり、第(5)波の上昇が進行中かもしれません(いまだ決め手には乏しいですが)。

本日(1月10日)は、昨年7月11日高値からの6カ月信用期日です。昨年前半に高値を付け、低迷が続いていた国内半導体関連株などには、底入れ機運が高まりやすい時期です。

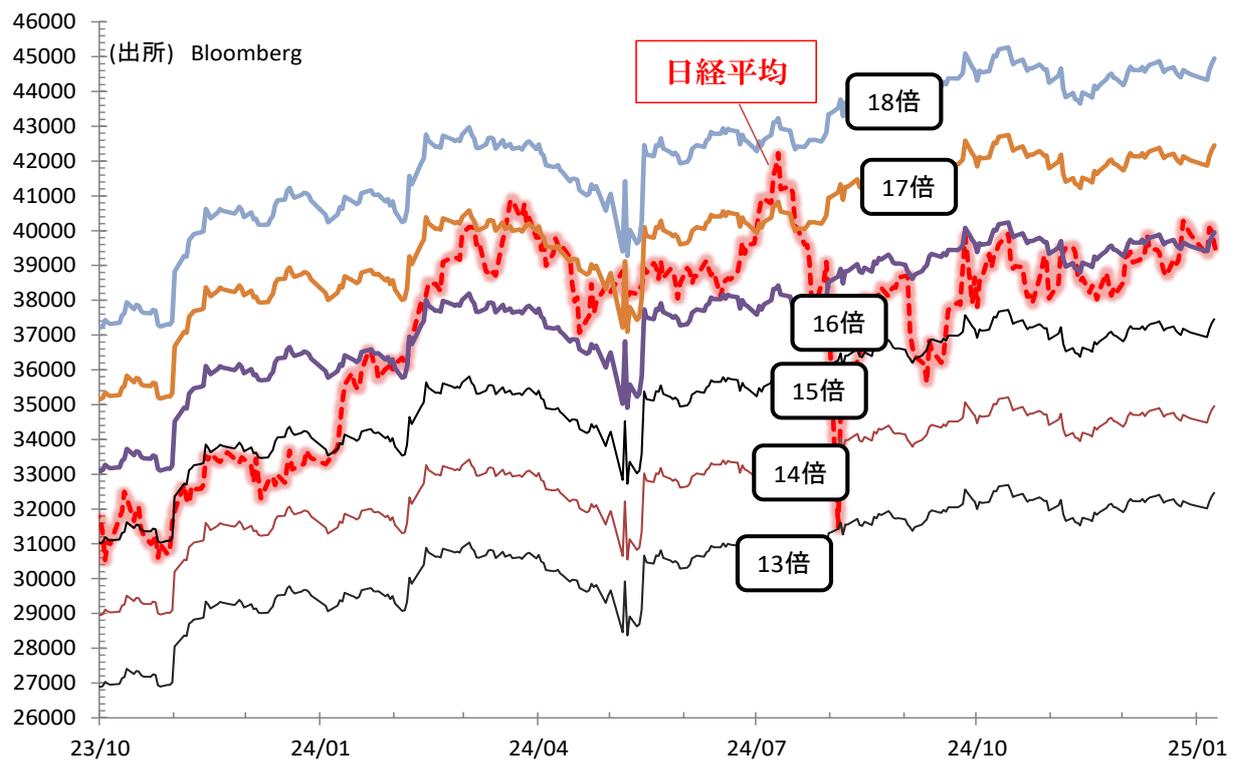
なお9月からこれまでのチョッピー(choppy)な波形は、第(5)波が「エンディング・ダイアゴナル」パターンになることを示唆しています。

日経平均は早ければ2月～3月にも42,426円を上抜き、最高値を更新するでしょう。第(5)波ターゲットは引き続き[4万3000円-4万5000円]です。

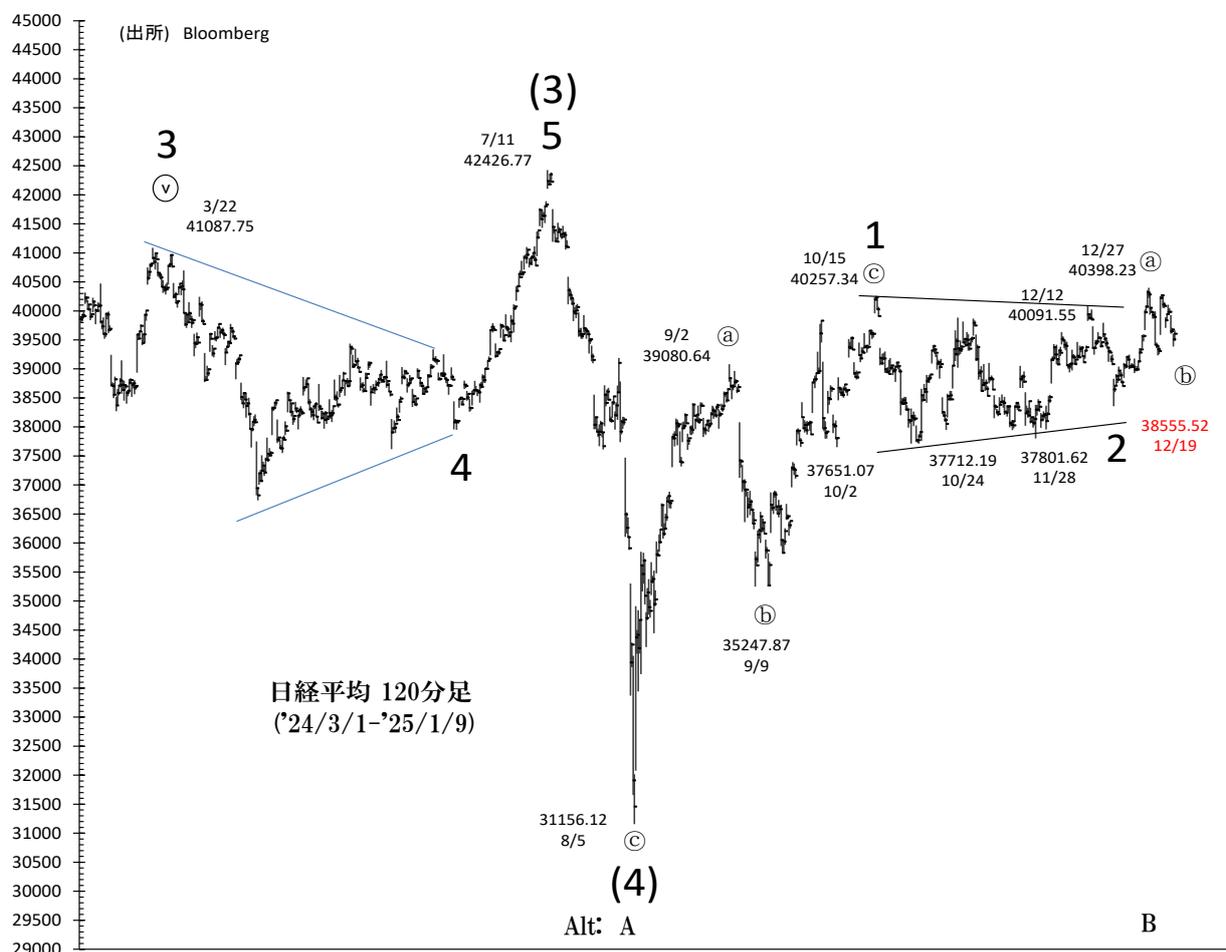
第(5)波上昇を以て、5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るとみています。



[予想 PER 別の日経平均水準]



日経平均予想 EPS は 1 月 9 日時点で 2497 円。昨年 10 月 5 日に付けた過去最高値 2514 円に近づいています。高値更新なるか、今後の動向が大いに注目されます。



【時間足 エリオット波動分析】

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」とみられます。

40,257 円(24/10/15 高値)を第 1 波高値、38,555 円(12/19 安値)を第 2 波安値、そこからは第 3 波による上昇とみることができます。第 3 波は三波構成(①-②-③)ですが、40,398 円(12/27 高値)からは②波による下げとみられます。この波動カウントによれば、日経平均はまもなく③波の上昇を開始し、40,398 円(12/27 高値)を上抜くでしょう。

ちなみに、この波動カウントは 38,555 円を下回らないことが最低条件です。38,555 円を一時的にも下抜くと、昨年 8 月に次ぐ二番底を模索する展開となりそうです。

NYダウ

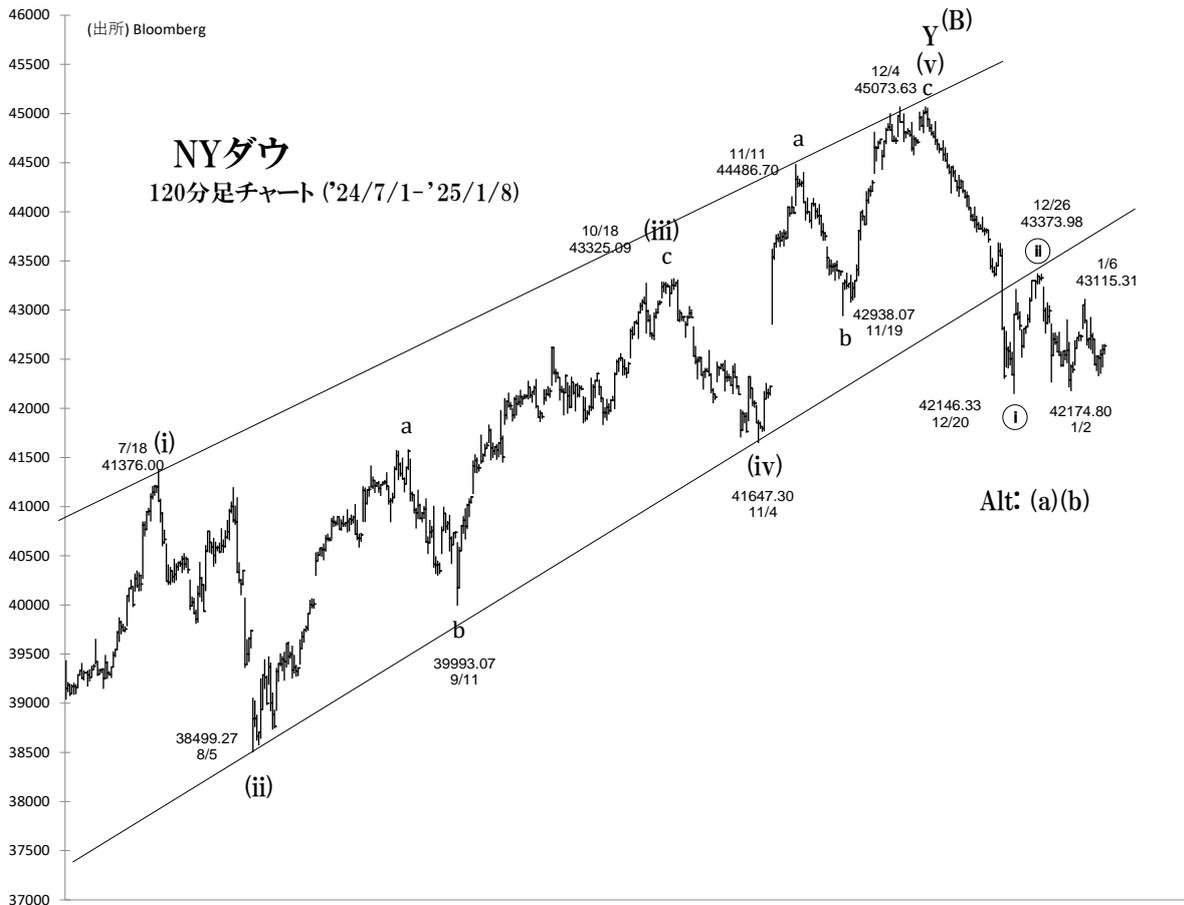


【日足 エリオット波動分析】

NYダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

なお当面の下値ターゲットとして有力な水準は24年4月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準です。ここまで下げた時点で、NYダウの高値からの下げ率は16.5%です。



【時間足 エリオット波動分析】

24年12月4日高値・45,073ドルを起点とする、最初の下げ波動(マル i 波)は、42,146ドル(24/12/20 高値)で終わりました。マル i 波の下げ幅は 2,927ドル、下げ率は 6.49%でした。

マル ii 波によるリバウンドは、43,373ドル(12/26 高値)で終わり、マル iii 波の下降波が始まった可能性があります。この可能性は 42,174ドル割れで高められ、短期的にも 41,647ドル(24/11/4 安値)を打診することでしょう。

一方、43,115ドル(1/6 高値)を上抜くと、マル ii 波はまだ続いており、43,373ドルを試す展開となりそうです。

いずれにしても、ひとたびマル iii 波がスタートすれば、その下落スケールはマル i 波を凌駕するでしょう。1月20日から始まる「トランプ政権 2.0」は、株安という洗礼をいきなり受けるのかもしれませんが。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

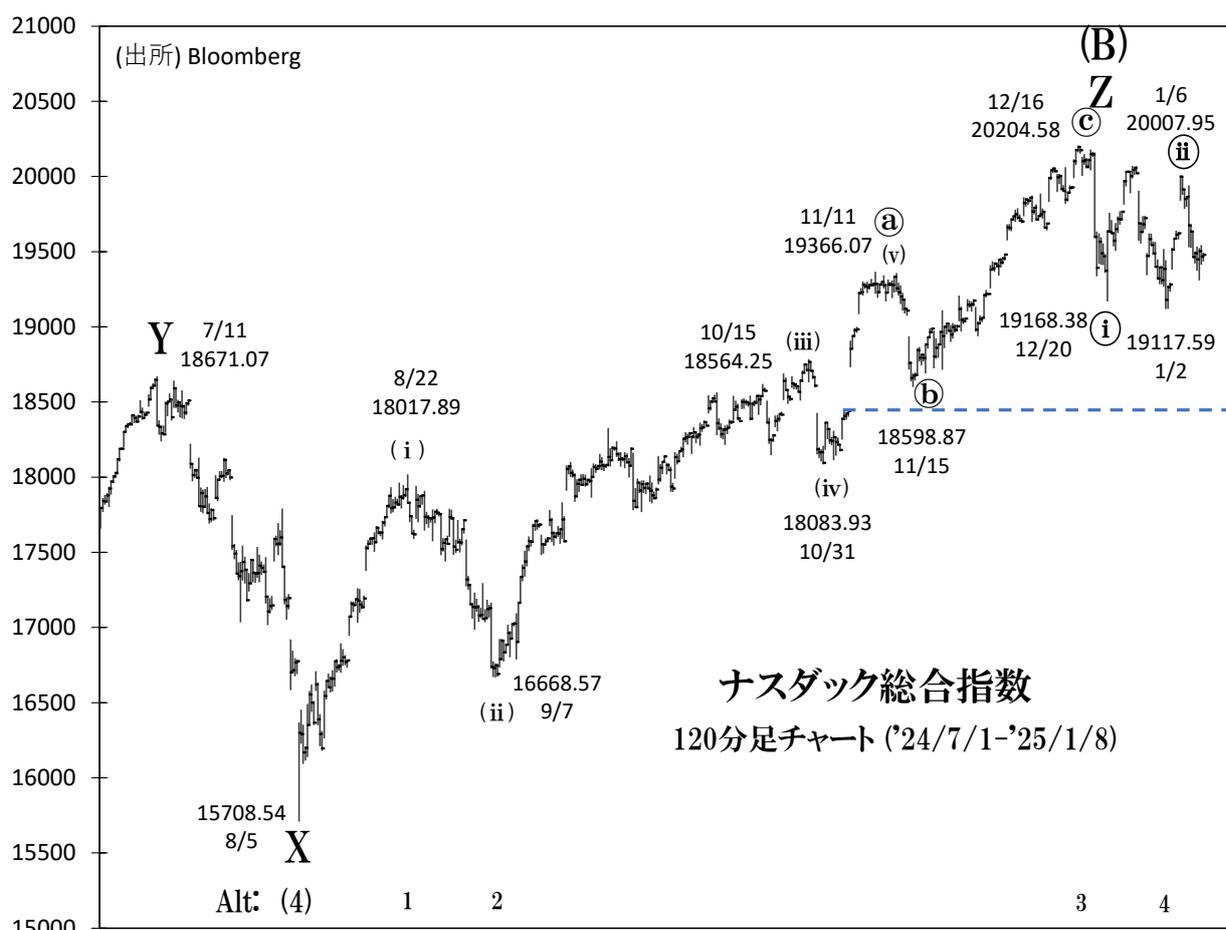
22年12月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

20,204(24/12/16 高値)を以て④-(B)波は完成し、そこから(C)波による下落に入った可能性があります。(C)波は(A)波(21年11月~22年10月、高値から37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22年12月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。第⑤波未完成であるなら、大きな調整局面を迎える前に、ナスダックは最終的な天井を付けるでしょう。



ナスダック総合指数
120分足チャート ('24/7/1-'25/1/8)

【時間足 エリオット波動分析】

20,204(12/16 高値)以来の最初の下げ波動(マル i 波)は 19,168 で終わり、そこからはマル ii 波によるリバウンドとみられます。このマル ii 波は「フラット」を形成しており、それは 20,007(1/6 高値)で終わったか、終わりつつあるようです。

この見方が正しければ、まもなくナスダックはマル iii 波による下げ局面に入り、遠からず 19,117(1/2 安値)を明確に下抜くでしょう。

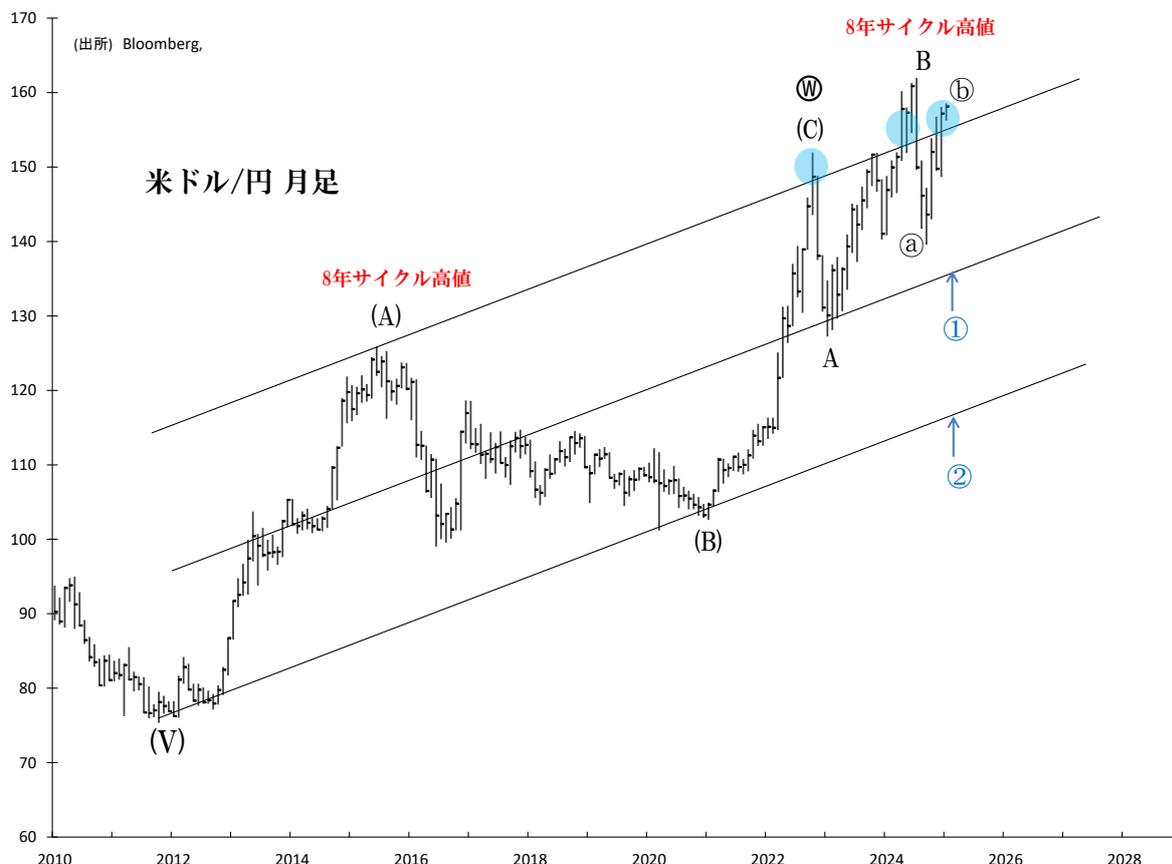
来るマル iii 波の下落スケールは、マル i 波(下げ幅 1036 ポイント、下げ率は 5.13%)を優に超えるとみられ、下振れリスクは大きい、といえます。当面の下値ターゲットは、11 月 6 日のギャップを埋める水準 [18,449](上チャート破線の水準)です。

なお上記見通しは 20,204 を上回らないことが前提であり、上抜いた場合は別の波動カウントが必要です。

【オルタナティブ・カウント】

24 年 8 月安値(15,708)以来の上昇は第(5)波です。この上昇トレンドは、五波動構成(1-2-3-4-5)であり、19,117(1/2 安値)から第 5 波の上昇が進行中です。この第 5 波によってナスダックは、[20,400-21,300]へ上昇する可能性があります。なおこの波動カウントは、現行の下降波動が、昨年 8 月 22 日高値(18,017)とオーバーラップした場合に消滅します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

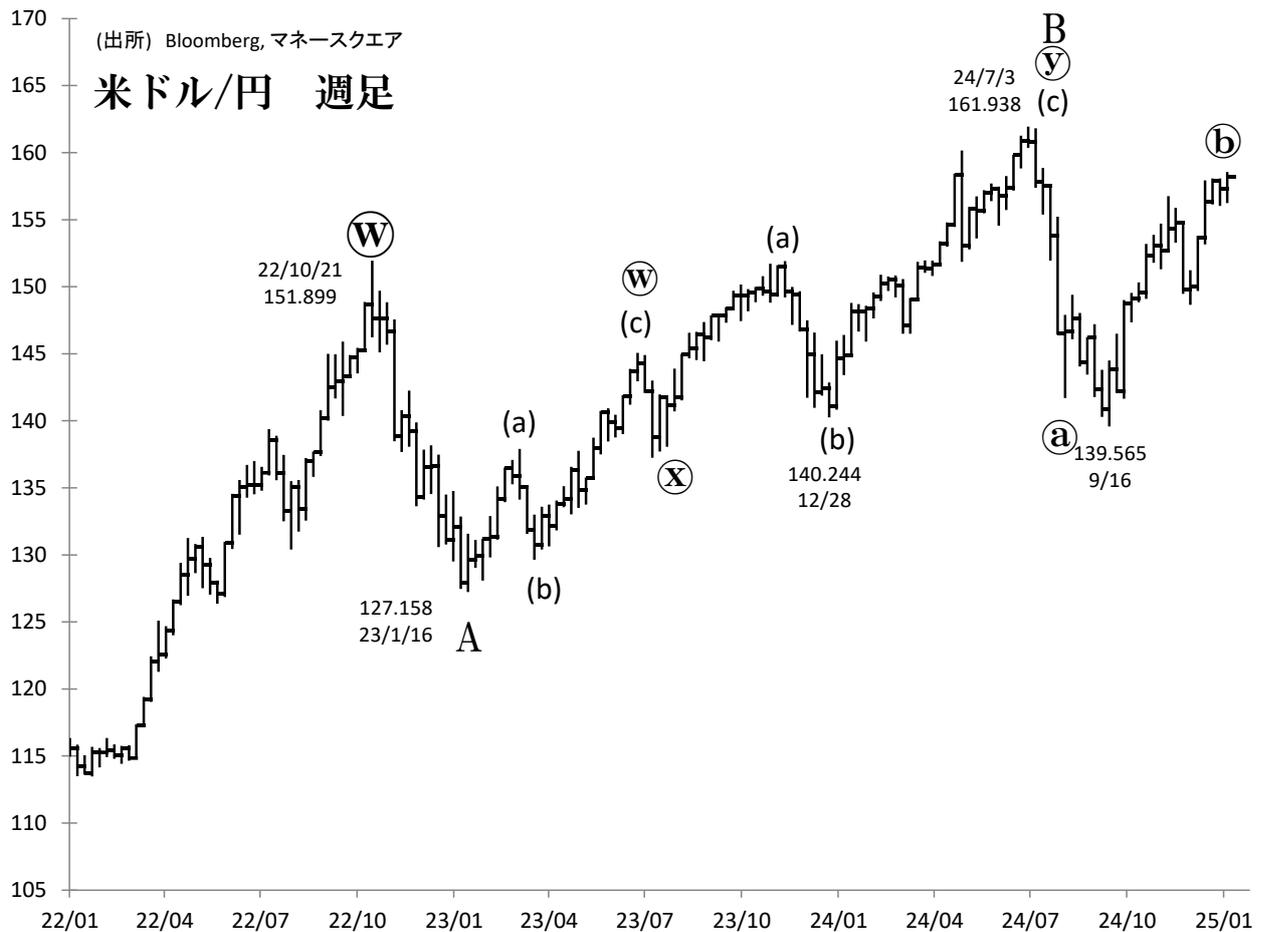
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

25年1月、①の水準は135.655円に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。25年1月を通じ、②の水準は116.030円となっています。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。この C 波は、三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)で進展していく、と思われます。

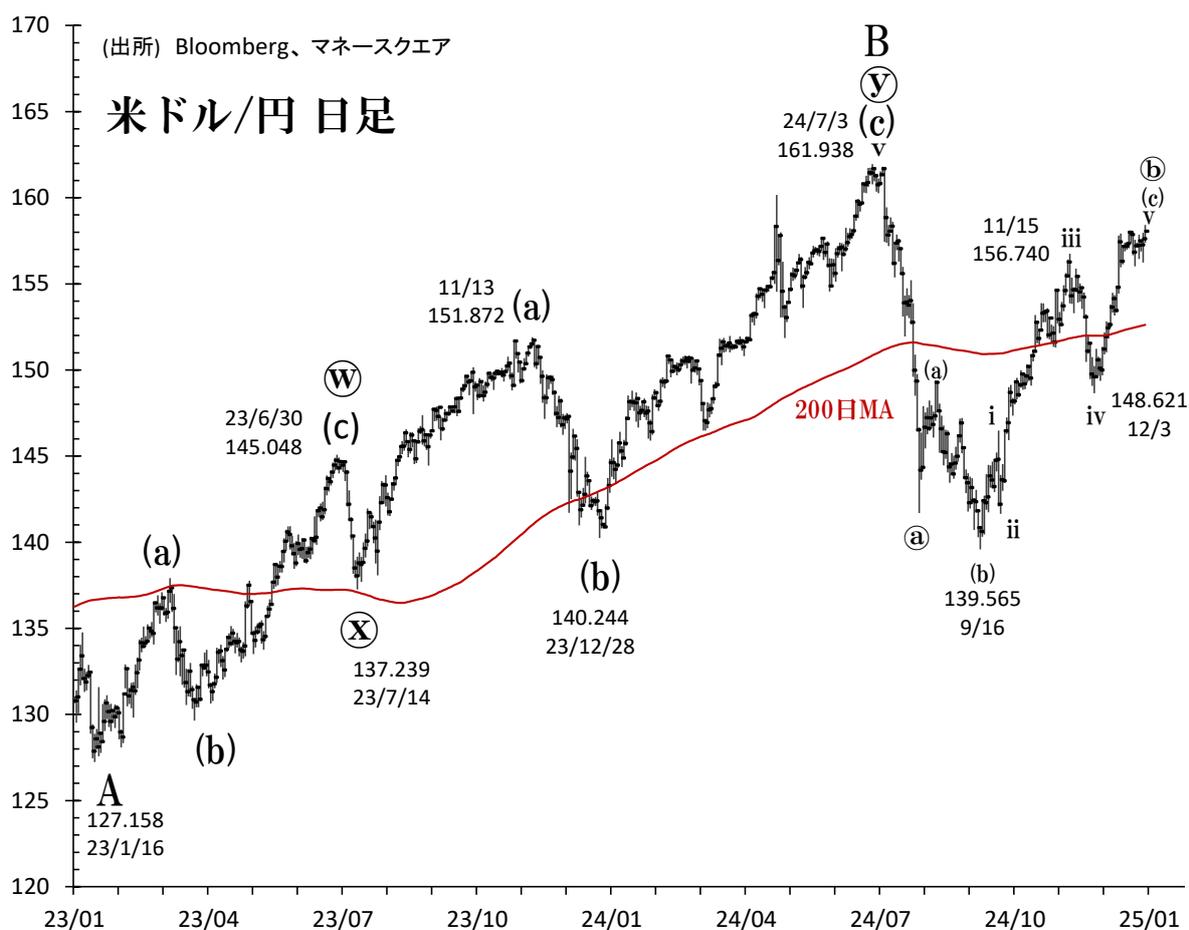
足元、ドル/円は 158 円近辺で高止まりとなっています。160 円も視野に入る状況ですが、このⒷ波によりドル/円は、7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」を遠からず付けるでしょう。

近々Ⓑ波が終了するとともに、Ⓒ波のドル安・円高が始まると予想します。

24 年 7 月高値を上抜いたときの考え方

メインシナリオ上、24 年 7 月高値(161.938 円)を上抜くことはない、とみています。しかし見通しと異なり、161.938 円を一時的にも上抜く場合には、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くと一イレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)より、⑥波「エクспанディット・フラット」が展開しています。

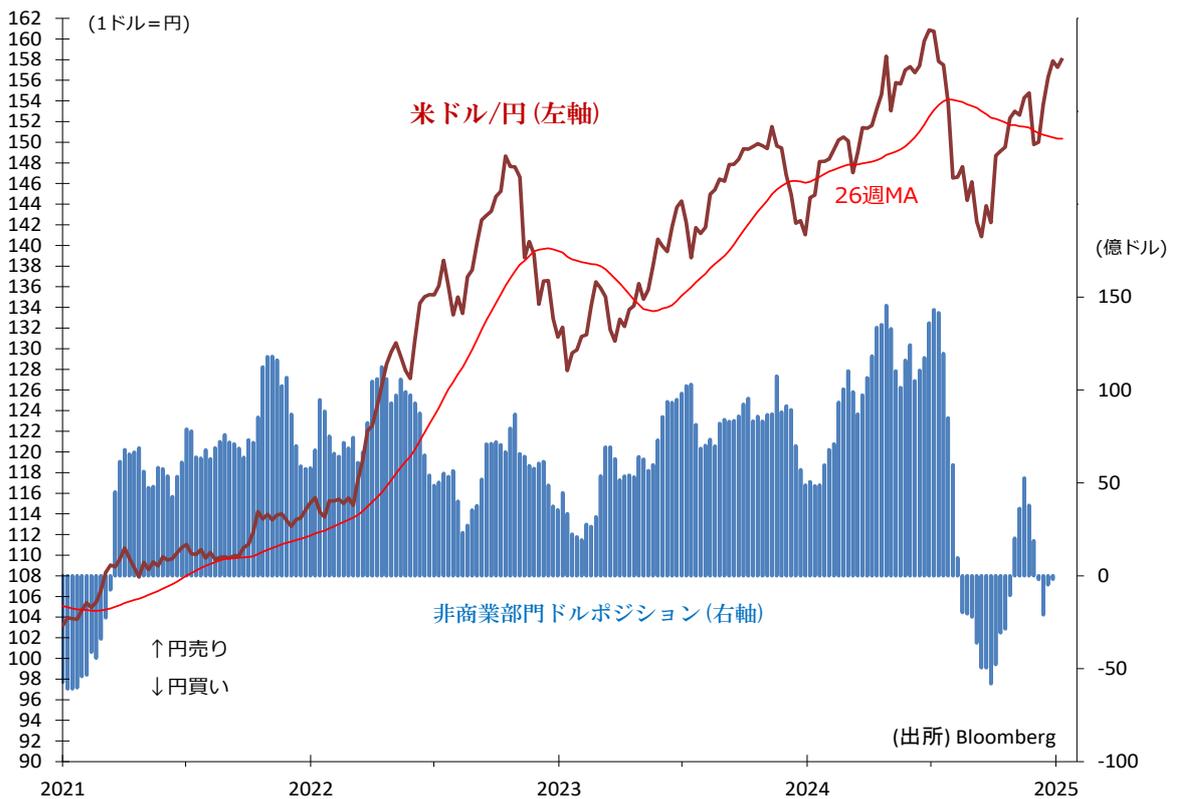
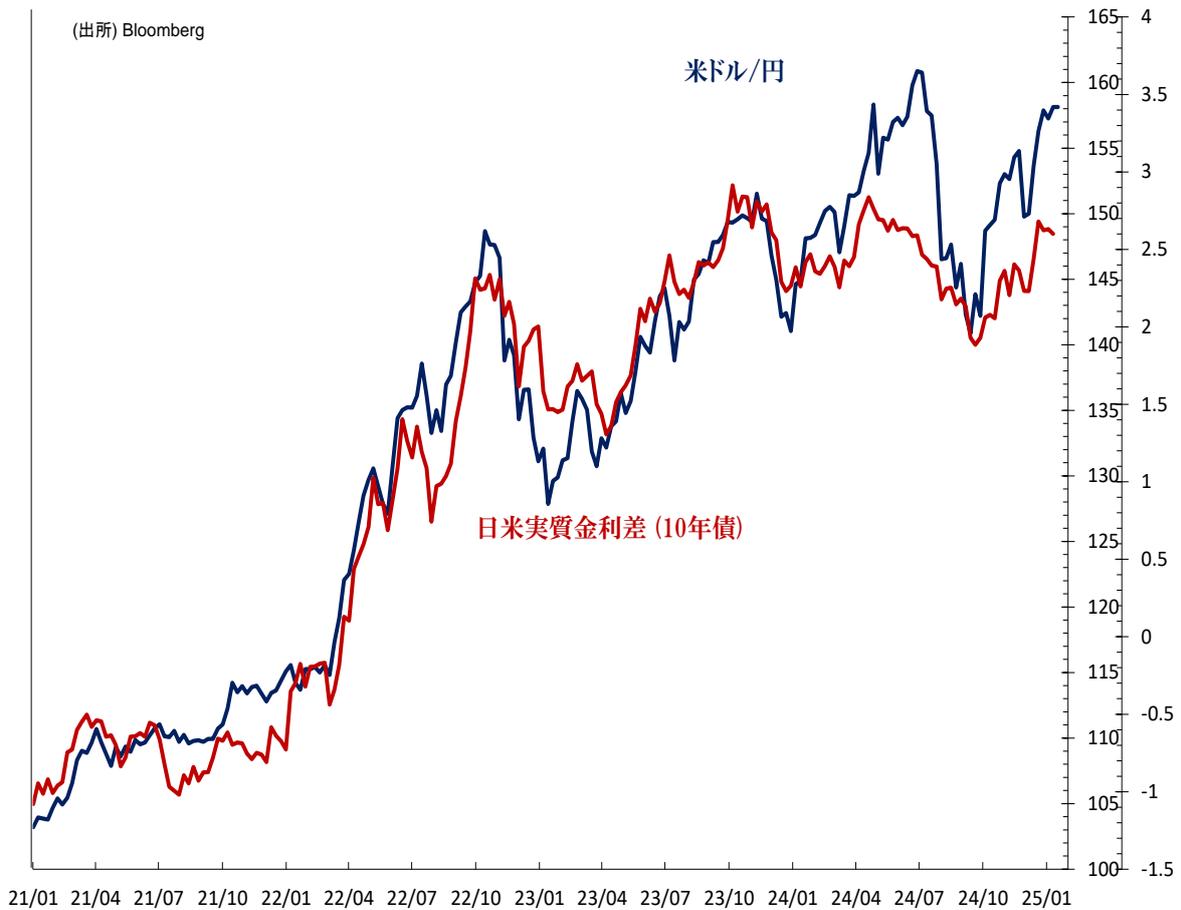
139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは目先的にも終了し、ドル安円高基調が再開する見込みです。25年には139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

金利差からのドル/円推計値

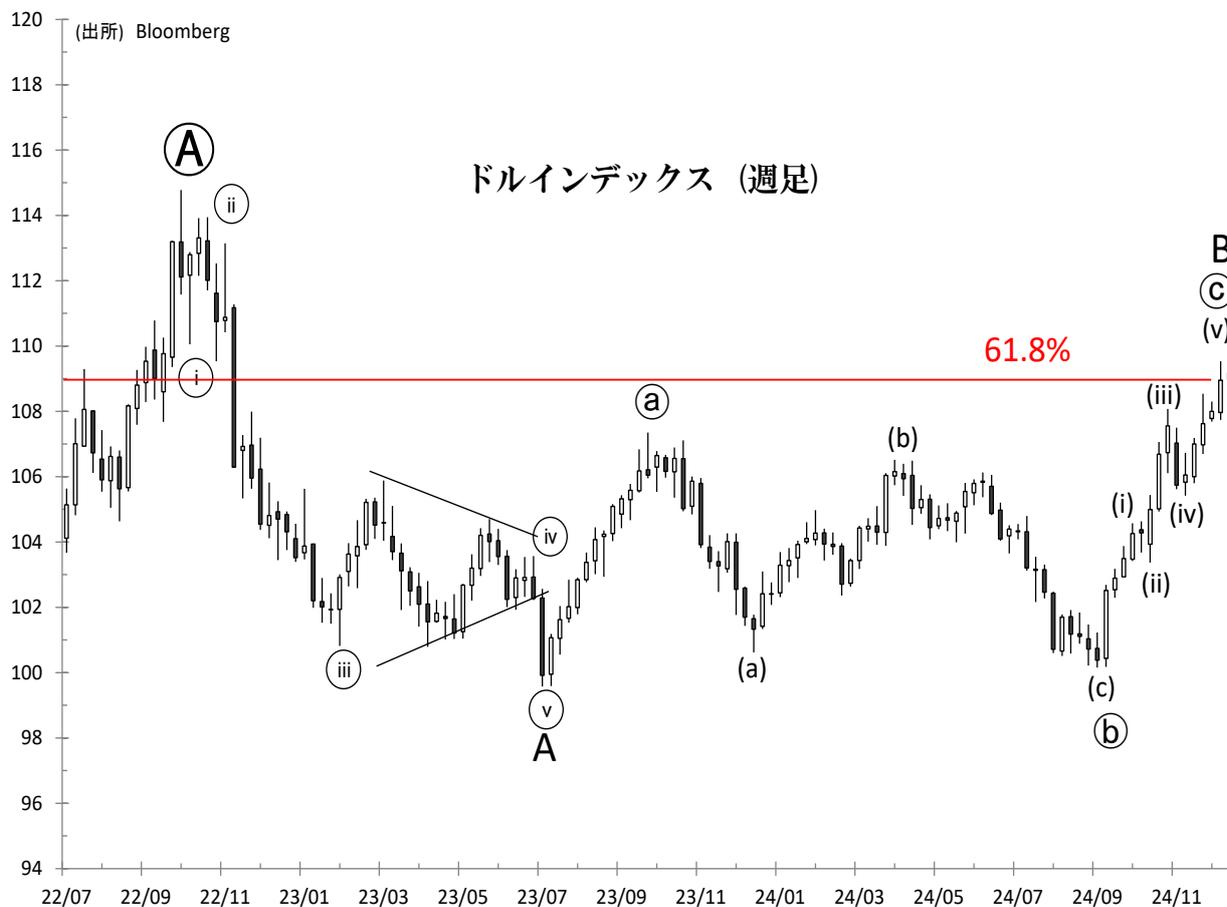
日米実質金利差からのドル/円推計値は[150.632 円]です。

投機筋の円買い持ちが縮小(12月24日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ちポジションが、前週(4.76 億ドル)から 1.83 億ドルへ縮小しました。円買い持ち高の縮小は3週連続です。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

25 年はドル安の年になる可能性が高いでしょう。

100.157(9/27 安値)からの B 波-ⓐ波によるドル高は、109.533(1/2 高値)を以て終了し、C 波のドル安トレンドに入ったかもしれません。この見方は 107.750(1/6 安値)を下抜くことにより高められます。

一方、目先 109.533 を上抜くと、次のフィボナッチ比率レンジである[109.711-110.311]へ上昇継続となりそうです。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
